



タートル

あれえ... 海の中に木がはえてる。
おもしろいな～、近くに行ってみようっと!



タートル

おじさん、こんにちわ! 僕、タートル!!

谷さん、榎尾さん

こんにちは!?!...

タートル

ねえおじさん。
ここの木は海の中に生えているの?

谷さん

そうなんだよ。
この木はマングローブの仲間なんだよ。

タートル

マングローブ? マングローブってなあに?

榎尾さん

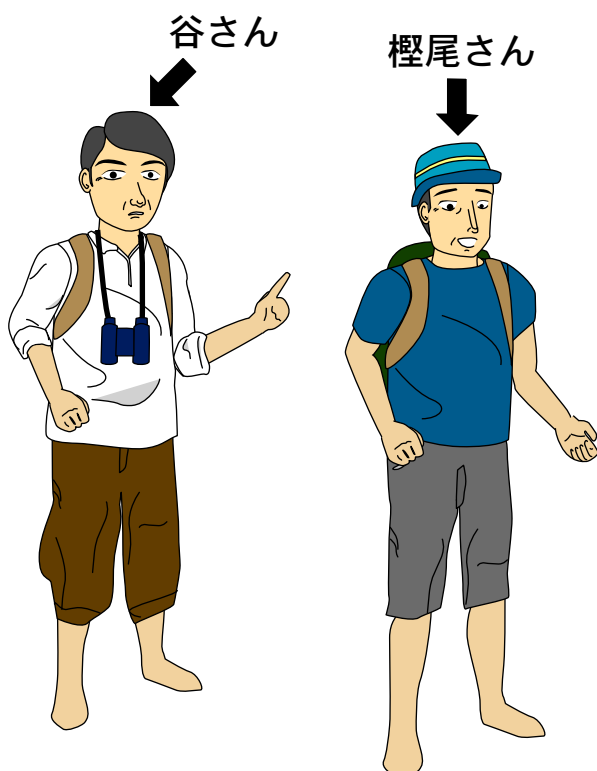
そうだな、
熱帯の潮間帯に育つ植物の総称のことだよ。

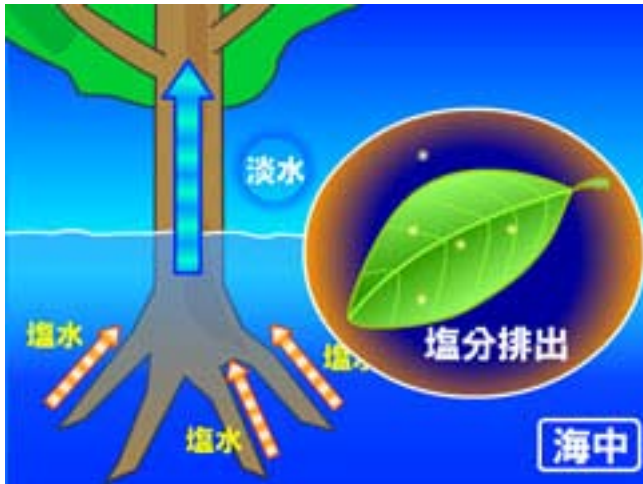
タートル

ふーん...??? (ゼンゼン分かんないや)

谷さん

つまりね、海岸や河口の一部で、潮がひくと、
陸地になるところで育つ植物をまとめてマング
ローブっていうんだよ。
マングローブの種類は世界で100種類ぐらいで、
ほとんどは木の種類だけど、草の種類も少し
あるんだよ。



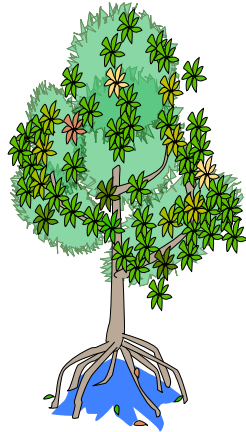


タートル

この木って、
しょっぱい海の水の中でも大丈夫なのかなあ？

樫尾さん

タートル君は良く知っているね。そうだね、普通の植物は塩分に弱いんだ。マングローブだって、決してしょっぱいのが好きなのじゃないんだよ。マングローブには、根がフィルターになっていて、海水の塩分を吸わない仕組みになっている種類や、海水をそのまま根から吸い上げ、淡水だけを細胞にとり入れる種類があるんだよ。



谷さん

他には、葉っぱから塩分を排出（はいしゅつ）するものもあるんだよ。それはね、葉っぱの裏をなめるとしょっぱいんだよ。

タートル

へえ、マングローブってすごいんだね。

樫尾さん

しかもね、ここブルネイのマングローブは、世界でも珍しい天然林（てんねんりん）なんだよ。

タートル

て・ん・ね・ん・り・ん？

樫尾さん

天然林はね、人間の手が入っていない森のことだよ。高さが30mもあるマングローブなんて珍しいんだよ。30年ぐらい前までは、ミャンマーとかタイとか、北緯20度～南緯20度の当たりの海沿いには、結構あったんだけどね。今ではこの他にエクアドルぐらいかな。

タートル

なんで、そんなになくなっちゃったの？

樫尾さん

30年ぐらい前から、その地域の人たちの人口が爆発的に増えたんだよ。そうすると、炊事のための薪（たきぎ）や炭、家を建てるための木材が必要になって、どんどんマングローブの木が切られちゃったんだ。





谷さん

それにね、天然のマングローブが減ってしまったのは日本などの先進国の人たちの影響もあるんだよ。

タートル

なんで、そんなに離れた国の人が関係あるの？

谷さん

日本人が食べるエビの80%近くが、こうした南の国から輸入されているんだけどね、その国では、そのエビを育てる池をつくるために、マングローブの森がどんどん壊されているんだよ。



樫尾さん

戦争や、タンカー事故なんかで、大量の原油が海に漏れ出して（もれだして）、マングローブが枯れてしまうこともあるんだ。

タートル

昔はたくさん生えたのにね。でも、なんででブルネイには残ったの？



谷さん

ブルネイはね、石油や天然ガスなどの資源があったから、それを外国に売って得られたお金で、比較的豊かな生活をする事ができた国なんだよ。だから、マングローブの木を切ってエビを養殖する必要もなかったわけだ。だけど、石油や天然ガスも、あと30年ぐらいでなくなるといわれていて、それに変わる産業を探し始めているんだよ。

タートル

ブルネイには、他のアジアの国のように木材を売らないでもすむような産業を見つけてほしいな。



タートル

30年後にまた来る時にも、ここの背の高いマングローブ林が残ってくれるといいなあ。

○ マングローブについて ○

1, マングローブとは：

ヒルギ類の総称です。『マングローブ』は、生い茂る熱帯から亜熱帯にかけて見られます。またマングローブは、川の下流から河口などの海水と淡水が混ざる地域に生育しています。

2, 日本では：

日本では鹿児島県、沖縄県などでみられます。

ヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキ、ニッパヤシの7種が自生します。種が海水に流されないように、親木で成長してから泥に突き刺さる工夫をした胎生種子（ヤエヤマヒルギ）や、少しだけ成長してから落下する半胎生種子（ヒルギダマシ）などがあります。

3, マングローブが与える豊かな恵み：

マングローブ域は、川から流れ着く豊富な栄養分や、マングローブ自体が作り出す落葉などによって、植物は勿論、様々な動物達に豊かな恵みを与えています。

マングローブ域に達した栄養分は、カニや貝などの餌となります。また、微小な栄養分は微小な動物性プランクトンを招き、小魚や幼魚などの格好の餌となります。

マングローブの生い茂る海域には、数多くの種類の魚が住んでいます。

また"餌"が豊富にあるので、潮が満ちてくると多くの稚魚／幼魚達がやや沖合いの浅海域から押し寄せてきます。

そして、次にこれらの幼魚を食べようと中型の肉食魚も姿を現します。そして更にこれらの魚を追って、より大形の魚や鳥などが現れるというように、マングローブ域は、さまざまな生き物の棲家（すみか）となっているのです。

○ ブルネイ王国について ○

ボルネオ島北西部にある王様（スルタン）のいる国。

国土はマレーシアのサラワク州によって東西に二つに分かれています。

1984年イギリスから独立しました。大多数の国民は敬虔なイスラム教徒で、お酒は飲んではいけない国です。

首都はバンダル・スリ・ブガワンあります。

人口は約33万人（1999年）。

石油と天然ガスを産出していて、輸出（総輸出額の約86%（1999年推定）を占めている）しているので高い経済水準を維持しています。また、国内の政治は非常に安定しています。

医療、教育等が無料です。

このようにして安定した経済、高い所得水準を維持していたおかげで、他のアジア諸国と違って木材を売ってで外貨を稼ぐ必要がなく、森林を残すことができました。

アジアでは珍しく今でも森林率が80%もあります。

30年後には、石油、天然ガスの枯渇が懸念されていて、これに変わる外貨獲得の方法を模索し始めています。

リコーの活動

2002年6月にリコー社員2名が、ブルネイのマングローブ原生林を訪ねました。日本の環境NGOラムサールセンターとブルネイ政府のご協力のおかげで、素晴らしい体験をすることができました。



ブルネイは東南アジア、ボルネオ島の北西部にあり、南シナ海に面し、マレーシア・サラワク州に二分された東部と西部にわかれています。



首都のバンダル・スリ・ブガワンは西部にありますが、マングローブ原生林は東部の北端にあるセリロン島にあります。セリロン島にはチャーター船でいくことができます。セリロン島はマングローブで生い茂っています。



リコーの活動

マングローブの中の一部に、ブルネイ政府が整備した木道があり、その上を歩けるようになっています。 セリロン島には、隣国からの侵入者がたまにやってきて、マングローブの木や木道を盗んでもって帰ってしまうので、銃をもった警備兵士が常に常駐しています。

セリロン島の中でも、ビジターセンターから離れた中央の部分には、特に見事な、樹高40mにも及ぶマングローブの原生林を見ることができます。

リコーはこの場所を永久に保存してほしいと、ラムサールセンターを通して、ブルネイ政府に、ラムサール条約登録地、世界遺産登録地とするように、働きかけを行っています。

将来、この場所は、ブルネイにとって、貴重な、観光資源となるのは、間違いありません。間違った開発や、多すぎる観光客がこないような配慮を行った観光「エコツアー」をするための準備も始められています。

ブルネイ東部には、Ulu Temburong国立公園があり、ここには、フタバガキ科に代表される、典型的な熱帯雨林の原生林が残っています。



ここでは、木をてっぺんから見えるぐらい高い塔に登って木や林の様子を見わたせるキャノピーウォークが用意されていて、実際に熱帯原生林を見わたすことができます。帰りは、熱帯林を見ながらボートで河をくだるラフティングも楽しめます。

